

維新政治を問う

いま大阪では、全国に例をみない不公平な公立高校入試が強行されようとしています。維新府政の下、府教委が強行導入した「チャレンジテスト」(統一テスト)によって、府内の中学校約500校と中学生約7万人が全て序列化され、これが高校入試の内申書作成に利用されようとしているからです。



府民連の9月定例府議会開会日行動で「チャレンジテスト反対!」とアピールする参加者=27日、大阪市

「チャレンジテスト」は、1、2年生は1月、3年生は6月に実施されます。学期ごとの中間・期末テスト、実力テスト、全国学力調査(全国学力テスト)などをあわせる、多い学校では年14回もの「テスト漬け」になります。

内申点に学校差
中3の「チャレンジテ

スト」では、各中学校の結果平均によって、各中学校がつけることのできる内申書の学校平均が決まります。大阪では、地域間、学校間で平均点の差が大きいため、高い学校では内申書の学校平均が5段階の「4」を超え、

「4」をこえる中学校では生徒の内申点がほとんど「4」と「5」ばかりになり、「2」の中学校では「1」〜「3」しかつけられません。通っている中学校によって内申点に差が付けられ、明らかに入試に有利な中学校

についても反映されません。また、6月のテストで、その後3月までの1年間の各中学校の内申平均が決定されるため、6月以降にいくら頑張っても反映されないなど、全く道理のない制度となっています。生徒

の結果、子どもたちの間では、「頭のいい人に頑張ってもらおう」「私たちが頑張っても、0点とる子がおるからなあ」「お前がテストを受けたら、平均点が下がる」「俺たちテストに参加しないほうがいいかな(実際に当日欠席しました)」などの発言がとびかき、大切な友情が引き裂かれる状況を生み出しています。

チャレンジテスト

(上)

不公平な高校入試招く

子ども人間関係壊す

低い学校では「2」前後に抑えられます。

と、不利な中学校が生まれ出されます。

しかも「国・社・数理・英」の5教科のテスト結果で、テスト教科外の「音・美・体・技家」の内申平均も決定され、体育や音楽でいくら優れた

1人ひとりにとって、内申点を上げるためには転校するしかありません。

友情を引き裂く

さらに深刻なのは、子どもたちの人間関係が破壊されはじめていることです。各中学校は高い内申点を獲得するため、たいへんな学校間競争にかかり立てられています。そ

子どもたちの進路はかけがえのない大切なものであり、入学試験はだれが見ても公平であることが最も求められます。しかし中3の「チャレンジテスト」は中学校の中に、地域間格差、学校間格差をつくりだし、点数の高い学校は内申点を加算して有利にし、低い学校は減点をして不利にし、格差をいっそう拡大する極めて不公平なものであり、入試制度として断じて認めることはできません。

大阪教職員組合委員長

田中 康寛さん



(寄稿、つづく)